

# 筑波大学新聞

第259号

編集責任  
筑波大学新聞  
編集委員会  
委員長 中村紀一

TEL: 029(853)2040・6699  
E-mail: shimbun@sakura.cc.tsukuba.ac.jp  
月刊

発行所  
筑波大学  
茨城県つくば市  
天王台1-1-1

## 紙面から

アントレプレナー交流会「起業とは何か」  
インク講演会 ペルーの風本学に  
柔道 福見、2年ぶり2度目V  
ズームアップ スポーツの地域貢献  
宿舍改修 居室料金巡り意見百出  
MTGF どう生かす「筑波力」

11 11 10 9 5 2

特集 6,7

旅立つアスリート  
苦難を乗り越え 夢へ旅立つ

ミニ特集 3

退職教員  
第2の人生へ

## 新総合科目

### 他組織の教員も担当へ

07年度の学群改組に伴い一新して開設される総合科目が出揃った。新総合科目は「学際的科目」と「異分野入門的科目」の2種類で構成され、144科目159単位からなる。新しく開設される科目は、全体の55パーセントにあたる79科目。開学以来の老舗科目や人気科目は名前を変えず、内容の見直しを行った。

総合科目編成室が各学「したことから」「学際的科目」が67科目となった。類・専門学群に「学際的科目」が77科目(うちキャリアア支援室などの開設科目が8科目)、「異分野入門的科目」が77科目(うちキャリアア支援室などの開設科目が8科目)となるよう依頼した。

## 79科目を新規開設

医学専門学群が新しく開設する通年の学際的科目「医学と画像のインターフェイス」は、工学などを学ぶ学生に、工学技術が医学に与えた影響を伝えることを目的とする。担当教員は毎時間異なり、芸術や工学の教員など、3人に参加してもらう。オーガナイザーの大河内信弘教授(臨床医)は「幅広い授業を行うために、医学以外の先生にもっと入ってもらいたかった」と話した。

## 総合科目 FD 研修会 好評価の科目が多数 履修指導の充実目指す

研修会では2学期にマークシートを使って実施された総合科目の授業評価アンケートの結果が報告された。対象となったのは、2学期に開設された総合科目56科目のうち55%にあたる31科目。該当科目の受講者からの回答では肯定的なものが多数を占めた。

アンケート項目は全12項目。学生の授業への意欲では約70%、授業の理解度では68%、そして総合的な満足度では77・7%が肯定的な回答だった。

受講者の多い科目で、特に学生の満足度が高かったものは、「障害と共に生きる」というテーマの授業で、1月22日から第一学群の授業で利用されている。トイレットや放送設備は2月25日の前期入試に間に合うように設置する。歩道などの整備については1月に完成しているが、駐輪場などへの対応は全学的な自転車問題として検討を行い、それを基に設置を検討する。中地区共同利用建物で授業を受けた学生からは「工事が続いているが、騒音が気になる」といった声が寄せられた。

来年度より「学生支援センター(仮称)」が設置される第一学群D棟の改修工事は、1月22日より現場着工された。現在本部棟に置かれていた学生生活部が第一学群D棟に移転される見込みだ。

1月22日から第一学群の授業で利用されている。トイレットや放送設備は2月25日の前期入試に間に合うように設置する。歩道などの整備については1月に完成しているが、駐輪場などへの対応は全学的な自転車問題として検討を行い、それを基に設置を検討する。中地区共同利用建物で授業を受けた学生からは「工事が続いているが、騒音が気になる」といった声が寄せられた。

## 成迫、アジア最速で金



アジアの国々のアスリートが集うアジア大会が、昨年12月15日にカタール・ドーハ(メーン会場はハリーファ国際競技場)で行われ、本学からは5人学群生4人、大学院生1人が出場した。男子400m障害では、成迫健児(写真)(体専4年)が48秒78のタイムで優勝し、本学選手で唯一のメダリストとなった。(写真提供:共同通信社、6・8面に関連記事)

### アスベスト対策

### 66%で除去完了

### 春季休暇に工事を集中

本学の施設建物の吹きつけアスベストを除去する工事は昨年5月に開始され、今年3月末の完了を目指している。アスベスト対策工事の進行状況は1月末の時点で全体の66パーセントだ。校舎の工事は教育・研究への影響が最小となるよう、主に春季休業時に工事日程が組まれている。

アスベスト除去工事に合わせて耐震や内装を改修する第一学群E棟では、工事騒音による授業などへの対応で工事の進行が遅れている。アスベスト除去工事や改修工事による教室の移動先となる共同利用建物として活用するために今後も共同利用建物として利用される。

看護・医療科学類棟の西側に建設された西地区の共同利用建物は、平成19年度大学入試センター試験の会場として利用された。共同研究棟Aの西側に建設された中地区共同利用建物は、1月22日から第一学群の授業で利用されている。トイレットや放送設備は2月25日の前期入試に間に合うように設置する。歩道などの整備については1月に完成しているが、駐輪場などへの対応は全学的な自転車問題として検討を行い、それを基に設置を検討する。中地区共同利用建物で授業を受けた学生からは「工事が続いているが、騒音が気になる」といった声が寄せられた。

来年度より「学生支援センター(仮称)」が設置される第一学群D棟の改修工事は、1月22日より現場着工された。現在本部棟に置かれていた学生生活部が第一学群D棟に移転される見込みだ。

1月22日から第一学群の授業で利用されている。トイレットや放送設備は2月25日の前期入試に間に合うように設置する。歩道などの整備については1月に完成しているが、駐輪場などへの対応は全学的な自転車問題として検討を行い、それを基に設置を検討する。中地区共同利用建物で授業を受けた学生からは「工事が続いているが、騒音が気になる」といった声が寄せられた。

来年度より「学生支援センター(仮称)」が設置される第一学群D棟の改修工事は、1月22日より現場着工された。現在本部棟に置かれていた学生生活部が第一学群D棟に移転される見込みだ。



剣道部の寒稽古。朝5時半から、剣道場に竹刀の音が鳴り響く  
(撮影・石橋知佳=社会学類)

さん(84年比文卒)に次いで2人目。  
青山さんからのメッセージ  
「芥川賞という大きな賞をいただきましたが、私はいつもどおり出勤して、いつもどおり寝たきりです。食べたり寝たりして、前よりやる気が増えています。少し疲れてもいますが、楽しんでます。学生の皆さんも、今しかできない生活を開き直って楽しんでください。」

賞は、見た人の心に訴える。1993年に撮られた、やせ細った少女をハグワシが狙っている写真はアフリカの飢饉を世界に伝えた▼取材先で劇的な瞬間に出会うことはなかなかない。それでも人の心がこもった動きを見逃さずに、見た人の目を引きつけるような写真を撮っていきたい。

地元栃木では、雪は年に2回ほどしか降らなかった。夜に雪が降り、翌朝外に出ると、そこは一面真っ白な世界。朝もやの中、雪を踏みしめる音だけが響く。凍りつくような冷たい空気、白い雪と影のコバルトブルーのコントラスト――その一瞬をカメラにおさめた▼私が写真を撮り始めたのは小学生の頃で、写真好きの父の影響だ。自分が見つけた、桜の下で支えあっている夫婦の温かいシーンや、きれいな夕焼けの色を誰かに伝えたいという思いで写真に焼き付ける▼つくばに来てからも、学園祭や友人の誕生日など、常にカメラと一緒にいた。やどかり祭で毎日寝ずに作り上げた御輿が優勝し、みんなで賞状を囲んで撮った記念写真は、いつ見てもその時の喜びを蘇らせる▼私が撮るものはきれいな景色や幸せなシーンが多いが、メディアで目にする写真はそれ以外のものばかりではない。戦争で破壊された街や、失われていく自然など、撮った人の強い思いがこもった写真は、見た人の心に訴える。1993年に撮られた、やせ細った少女をハグワシが狙っている写真はアフリカの飢饉を世界に伝えた▼取材先で劇的な瞬間に出会うことはなかなかない。それでも人の心がこもった動きを見逃さずに、見た人の目を引きつけるような写真を撮っていきたい。

質問した。これに対し総合科目編成室長の山田宣夫教授(文芸)は「学生の意見をカリキュラムに反映させる努力が必要だ。3学期のデータも出た時点でより詳細な分析を行うと答えた。全学学類・専門学群教育課程専門委員長の菊地徹さん(国総2年)は「総合的に評価が良いことがわかったが、アンケート結果を受けての教員の改善が見えてこない」と話した。これに対し工藤典雄副学長(教育担当)は「総合科目ではカリキュラムと個人の教育力の2つの問題がある。各科目のオーガナイザーに結果を返却する」と答えた。総合科目では、受講者数の大幅な偏りも問題になっている。その原因としては、入学から履修申請までの期間が短く、シラバスの内容を十分に理解していないことが考えられる。総合科目編成室では、この問題を解決するため、来年度の新入生オリエンテーションやフレッシュマンセミナーで必要な履修指導を行うよう、昨年12月13日に新学群・新学類に依頼した。山田教授は「新しい総合科目の開設と必要な履修指導をセットにして行うことが重要」と語った。

## 筑波おはなし

では、雪は年に2回ほどしか降らなかった。夜に雪が降り、翌朝外に出ると、そこは一面真っ白な世界。朝もやの中、雪を踏みしめる音だけが響く。凍りつくような冷たい空気、白い雪と影のコバルトブルーのコントラスト――その一瞬をカメラにおさめた▼私が写真を撮り始めたのは小学生の頃で、写真好きの父の影響だ。自分が見つけた、桜の下で支えあっている夫婦の温かいシーンや、きれいな夕焼けの色を誰かに伝えたいという思いで写真に焼き付ける▼つくばに来てからも、学園祭や友人の誕生日など、常にカメラと一緒にいた。やどかり祭で毎日寝ずに作り上げた御輿が優勝し、みんなで賞状を囲んで撮った記念写真は、いつ見てもその時の喜びを蘇らせる▼私が撮るものはきれいな景色や幸せなシーンが多いが、メディアで目にする写真はそれ以外のものばかりではない。戦争で破壊された街や、失われていく自然など、撮った人の強い思いがこもった写真は、見た人の心に訴える。1993年に撮られた、やせ細った少女をハグワシが狙っている写真はアフリカの飢饉を世界に伝えた▼取材先で劇的な瞬間に出会うことはなかなかない。それでも人の心がこもった動きを見逃さずに、見た人の目を引きつけるような写真を撮っていきたい。



# 5 人の起業家が講演

## 「ベンチャーを選択肢に」

本学発ベンチャーを支援している「筑波大メンター」主催の「アントレプレナー交流会」が12月14、19の両日、産学リエゾン共同研究センター1階セミナールームで開かれた。第1回は20人、第2回は24人の学生らが参加した。

「起業に興味があるが、何をすべきかわからない」という学生は意外と多い。今回の講演では5人のアントレプレナー（起業家）が、実際に基づき、「起業とは何か」を現場からの声で学生に伝えた。

# アントレプレナー交流会 「起業とは何か」を伝える



事業について語る若林氏（産学リエゾン研究センターで）

第1回が「つくばハウジング」（つくば市千現）代表取締役の小野賢氏と「レスメイキング研究所」（つくば市妻木）専務取締役の温井達也氏の2人。第2回では「DAS」（つくば市春日）の林田祐樹氏、「サッケアフューエルズ」（つくば市赤塚）代表取締役の若林恒平氏、紫峰会職員の北澤徳之氏の3人が講演を行った。専門分野や業種の異なる5人の起業家が、自らの起業人生を語り、その

後、参加者の質問に応じた。現役の僧侶でありながら住販会社の代表取締役を兼任している小野氏や、本学の体育専門学群の出身で卒業と同時にダンススタジオの経営に着手した林田氏など、5人の経歴はさまさま。主催したメンターの会ネットワーカーの角井修さん（産学官連携コーディネーター）は「企業に就職するのと違って、起業には何も保証がない。その代わり何をするのも自由。起業家の数だけ起業の形がある」と話した。



試験1日目、問題用紙を配布される受験者（1H201教室で）

# 大学入試センター試験 6177人 本学で受験

平成19年度大学入試センター試験が1月20、21の両日茨城県内6会場で行われた。本学でも学内5カ所、147試験室で試験が実施された。全科目の中で最も受験者が多かった英語では、6177人が本学で受験した。

今年は体芸棟がアスベスト工事で使用できなかったため、代わりに春日キャンパスの11室で6300人が試験を受けた。また、昨年度も受験者が多かった英語では、6177人が本学で受験した。

# つくばスタンダード 本学の教育方針作成 20 年度入学希望者に配付へ

本学の教育目標とその達成方法を簡潔にまとめる「筑波スタンダード」とその基礎になる「学士課程の教育の基本方針」の作成が進められている。教育企画室が原案を作成し、学類・学群連絡会議で審議を行っている。

「筑波スタンダード」は、「社会に対する教育宣言」として位置づけられるもので、46ページの冊子形式で、12月14、19の両日、産学リエゾン共同研究センター1階セミナールームで開かれた。第1回は20人、第2回は24人の学生らが参加した。

スニングテストでは、今年も同様の理由で5人が再テストを受験した。

最終日、第三学群棟の試験会場で物理の試験を終えた。

# 初回の認証率 84% 静脈認証システム

施設部棟で10月から行われている静脈認証システム（静脈認証システム）のテスト運用の認証率が11月30日、算出された。登録した施設部職員78人のうちの68人が同日照会した結果、1回目での認証率は押し間違えを除いて84%、2回目までの認証率は91%、3回目までの認証率は98%だった。

テストのデータは施設部のパソコンで管理され、ログデータなどのダウンロードを行い、メールでメーカに報告している。再運用する場合、機器の更新を検討している。

主は妻・洋子さん。1953年東京教育大理学部地理学科卒。55年同大理学研究科修士課程修了、58年同博士課程修了、同年同大助手、60年気象庁札幌管区気象台勤務、77年本学教授。

大熊 榮氏（おおくま・さかね）元本学教授。1月21日午前0時43分に死去、62歳。妻は妻・光子さん。1975年東京都立大大学院人文科学研究科英文専攻修了。同年国学院大文学部専任講師、84年明治大文学部教授などを経て00年本学現代語・現代文化学系教授、04年同大学院人文社会科学研究科教授。06年退職、同年関東学院大文学部教授。

# PFI 導入で効率化 12階建て新B棟を建設

## 附属病院再開発

PFIとは、公共施設などの建設や維持管理、運営を民間の資金やノウハウを活用して行う新しい手法だ。

日本PFI協会によると、これまで病院の駐車場整備などにPFIを導入した国立大はあったが、病院本体への導入は初めてだという。PFIの導入で、従来より事業費を数パーセント安くできるとしている。

# 全代会と教員が議論 宿舍問題など考える

全学学類・専門学群代表者会議（全代会）の活動を報告し、学生と大学の交流を図る副学長懇談会が昨年12月13日、第一学群食堂で開かれた。工藤典雄副学長（教育担当）や高橋健夫副学長（学生生活担当）をはじめ、全体としては活発な印象を受けると話した。その後、学生宿舍の抱える問題について意見交換を行った。全代会は、事務員の不在や、設備の修繕が適切に行われないといった具体的な事例を示し、事務員のモラルの低さや、共益費の使途が不明瞭であることなどを訴えた。

国立大の附属病院は、高度先端医療や地域中核医療の拠点を担う一方、臨床医学の教育研究の場という特殊な機能を持つ。再開発の具体的課題と改善計画は▽高度先端医療の維持・推進▽先進的医学教育の発展▽臨床医学の力となるべき研究の推進▽地域との密接な連携体制の構築▽病院経営の更なる健全化の5項目。

再開発では、12階建ての新B棟を増築し、既存棟についても改修を行う。新B棟には高機能手術室や救急医療設備を設ける。既存棟の病棟にある約800床のうち約600床を新B棟に移す。新B棟は平成24年にオープンする見通しだ。

山口麿附属病院長は「患者の視点に立った入院診療を安全かつ効率的に行うことを目指したい」と話している。

# 15社が語る業界の真実 企業合同説明会

本学生の就職活動を支援する学生団体JEWELによる企業合同説明会が12月13日、大学会館で行われた。参加企業は、日本テレビ放送網株式会社、SHARP株式会社、株式会社ミクシィなど計15社。説明会は4部構成で、立ち見が出るほか、全代会議長の小林敬介さん（エシス3年）は「教職員からもっと幅広い意見を聞きたかった。宿舍などの問題は各部署と継続的に話し合っていきたい」と感想を話した。

「筑波スタンダード」は、「社会に対する教育宣言」として位置づけられるもので、46ページの冊子形式で、12月14、19の両日、産学リエゾン共同研究センター1階セミナールームで開かれた。第1回は20人、第2回は24人の学生らが参加した。

小島 昌治氏（こじま・しょうじ）東京教育大名誉教授。1月18日に死去、92歳。妻は長男・建治さん。1936年東京帝国大理学部物理学科卒。42年同大理学部講師、43年東京文理科大学助教授、44年東京帝国大理学博士、49年東京教育大・東京文理科大教授、52年東京教育大理学部教授、86年勲二等瑞宝章受賞。

河村 武氏（かわむら・たけし）本学名誉教授。1月20日午前10時14分、呼吸不全のため死去、77歳。妻は妻・洋子さん。1953年東京教育大理学部地理学科卒。55年同大理学研究科修士課程修了、58年同博士課程修了、同年同大助手、60年気象庁札幌管区気象台勤務、77年本学教授。

どの盛況ぶりだった。

「人気コンテンツ業界の裏側教えます」と題された第一部の中で、携帯端末でのオンラインサイト「モバオク」を運営する株式会社ディー・エヌ・エーの取締役を務める川田尚吾氏が講演を行った。同氏は、

分らない、裏の話を聞くことが出来た」と話した。

1968年スタンフォード大学院博士号取得。62年東京大宇宙航空研究所助手、68年スタンフォード大工学部研究員、78年航空宇宙技術研究所機体第一部熱弾性研究室長などを経て81年本学構造工学系教授、94年本学副学長。80年日本機械学会賞受賞。



# 退職教員 第2の人生へ

今年も39人の教員が退職する。研究に打ち込み、学生と戯れた本学での日々。退職する4人の先生に思い出と今後の抱負を聞いた。(本紙・鈴木真理、藤井沙織、社会学類、水田武人、日本語・日本文学類)

## 類人猿から人間社会まで



西田正規 教授  
(進化史)

大学では農学部、大学院は理学部に進み、医学部や理学部の教員を経て、現在は文学部で授業を教える。そんな異色の経歴を持つ西田正規教授(歴人)は、自身を「流浪の民」だ

「類人猿から人間社会まで」西田教授は、82年。その頃は食料資源や植生などに着目し、縄文時代の研究をしていく。縄文時代という、多くの人は縄文土器をイメージする。しかし西田教授は「定住」を重要な要素と捉えた。1万年ほど前に、あちこちで人類史上初の定住社会が成立し、日本ではそれが縄文時代だったため、縄文時代は日本史の延長上で見られてきた。けれど、日本を超えて人類史的に定住の意味を考えると、



湯澤質幸 教授  
(漢文学)

## 研究が誘った教員の道

なっていることに気づいてくれるという。退職後は、人類学を1冊の本にまとめつつ、大好きなスキーをするため新潟の山小屋で暮らすという西田

「研究は心を満たしてくる」。湯澤質幸教授(文学部)は、言い切った。研究こそが大学教員を志す道標となったのだ。1966年に東京教育大文学部を卒業後、生まれ故郷である群馬県で国語の高校教師をしていた。その時、「このままでいいのだろうか」という気持ちが湧き、自分が進むべき道を決めるため、東京教育大大学院に活路を求めた。そこで「日本の漢字音の研究」をテーマに深く研究していくうちに、研究そのものが持つ魅力に魅了されたという。山形大を経て1986

年、前年に設立されたばかりの本学日本語・日本文学部に赴任した。当時の緊張感や教員・学生双方の手探り状態は、今思えば懐かしいという。本学生については「積極的に個性豊かなタイプが増え、学生と教員の距離が縮まり、肩に力が入らない形のコミュニケーションがで

こと」だという当然のこと。に気づいた。学生との交流・卒論指導・ゼミもまた、研究の原動力になった。22年間勤めた本学を退職した後は「未だ発展途上にある自分の研究をもう少し

## 最終講義

- 【人文社会科学部研究科】  
システム研究科棟BS502・503  
◇長谷川宏司教授「植物の知恵―その謎解き―」  
◇西田政規教授「人類史をめぐって」  
◇望月昭彦教授「英語教育のためのクロズ・テストとプロセス・ライティング」  
◇3月2日午後4時45分、中地区共同建物101  
【数理物質科学研究科】  
◇青木孝義助教授「振返れば、青木保夫助教の思い出―事、思、事、松本秀樹教授「三十五年の研究生活を振り返って」  
◇いづれも3月14日午後2時、1H101  
◇大成誠之助教授「固体スペクトロスコープ」  
◇吉崎亮造教授「筑波大学における30年」  
◇いづれも3月14日午後2時、3A402  
【生命環境科学研究科】  
◇小黒謙教授「小さな虫に魅せられて」  
◇2月10日午前10時、2B411  
◇安部征雄教授「乾燥地環境研究について」  
◇2月16日午後4時45分、2B508  
◇向高祐邦教授「バイオリアクター研究―今昔物語―」  
◇2月16日午後3時、総合研究棟A公開講義室110  
◇松村正利教授「生物化学工学の盛衰」  
◇3月9日午後4時、バイオ
- ◇山崎登教授「女性スポーツ医学―研究の軌跡と今後の課題」  
◇3月7日午後4時45分、総合研究棟D1随公開講義室  
◇諏訪伸夫教授「現代の体育スポーツ振興の課題」  
◇2月23日5時限、大会会館会議室  
◇中山凱夫教授「医学教育改革について」  
◇3月9日午後3時15分、医学専門学群棟臨床講義室A  
◇長澤俊郎教授「不易流行(血液学)の原点と未来」  
◇3月1日午後3時15分、医学専門学群棟臨床講義室A

## 体育を光り輝かせたい



高橋健夫 副学長  
(体育授業研究)

「競技や学問研究などすべての分野でスポーツ界のリーダーシップをとれる強い体育専門学群を作りたい」。本学随一の熱血先生・高橋健夫副学長(学生生活担当)は、体育専門学群で体育科教育学を教える。業で学生に見せた。

「体育の分野で学校現場に足を運んだ回数で、私に勝る人はいない」と自慢げに話す。茨城や千葉、東京の小・中学校で行われた体育の授業を視察し、DVDに撮影した。そのうちのいくつかは、高橋副学長の授業で学生に見せた。



鳥山由子 教授  
(視覚障害者教育)

視覚に障害のある子どもが、社会で生きていく力を身につけることができるか。どうかは、誰に出会い、どのような教育を受けるかで決まると話す。

1966年に東京教育大を卒業後、公立の中学校や盲学校を経て78年4月から98年8月まで附属盲学校で

## 盲学校での経験生かす

「視覚障害教育Ⅱ」の授業では、触覚で動物の骨格標本を観察することや、感光器というセンサーを使った光の実験、視覚に頼らない中和滴定実験など、盲

が、社会で生きていく力を身につけることができるか。どうかは、誰に出会い、どのような教育を受けるかで決まると話す。







インカ講演会

ペルーの風

本学に

インカのロマンを語る

大使館からガリード氏

ペルー大使館と本学の「比較市民社会・国家・文化特別プロジェクト」の共催で、インカ講演会「カパック・ニャン 偉大なインカ道―アンデスの統合の礎」が1月12日午後3時15分から、総合交流会館で開催された。

前半はアンドレス・ガリード氏（同大使館文化経済参事官）が、インカ道やインカ文明について講演を行った。ガリード氏は「遺跡の発掘や、日本からの移民の受け入れなど、ペルーと日本は昔から関わりが深い」と語った。



レセプションで歓談する参加者（総合交流会館で）

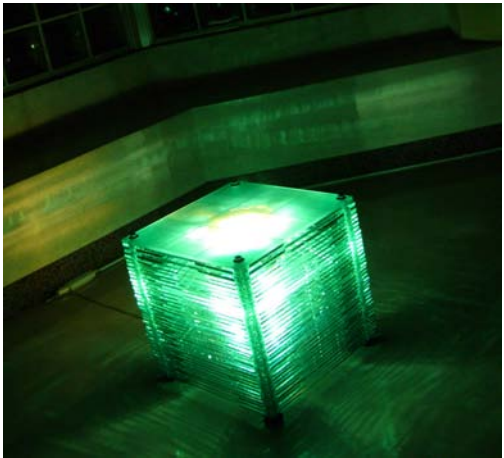
後半はフテンアメリカ研究の第一人者である遅野井茂雄教授（現公）が「多様な資源のもとでグローバル化に立ち向かうペルー」と題し、現代のペルーの課題を語った。「教育や地域経済などのミクロ改革には、強いリーダーシップが必要だ」と訴えた。

午後5時半からは同会場でレセプションが開かれ、参加者と講演者が交流した。ペルーの飲み物や軽食

光の芸術 小学校を灯す

光の芸術家といわれる逢坂卓郎教授（芸術）と芸術専門学群でデザインと芸術を学ぶ3、4年生25人による光の展覧会「re-light展」が昨年12月17―24日まで開催された。

場所は守谷市の旧大井沢小学校で、今は文化施設となっている「もりや学びの里」。周囲が暗くなり始める午後4時から午後9時まで再び灯し出す25の放課後展



作品の一つ。何重にも重ねられたガラスが光る

がふるまわれ、フォルクローレ同好会による演奏が行われるなど、異国情緒あふれる演出に参加者は満喫した。参加したフォルクローレ同好会の学生は「今年の春にペルーへ行く予定なので、興味が深まった」と話した。

また、同会場では1月9

英語への興味を刺激した

ビートルズと2人の恩師

私は福岡県の小さな炭鉱町で生まれました。その炭鉱町では今のように英語を話す外国人を見かけるということがほぼありませんでした。町で青い目をした外国人を見かけようものなら、珍しくてじろろ見たものですし、心臓がドキドキしたものです。英語は中学に入って初めて学ぶのが当たり前の時代でした。私も中学に入学して英

語を学び始めました。その時の英語の先生は大学を出たばかりの女性の先生でした。パーマーのダイレクト・メソッドを大学で学んできたようで、中学の時は、教科書の英文の暗唱と文型の繰り返し練習の中心でした。そして「[a]、[i]、[e]、[u]、[o]」など、本語に無い音を繰り返し教えてくれました。家に帰って、鏡の前で言われた通りに随分まねをしました。この先生との出会いが英語への興味の始まりだったと思います。

そして、「ビートルズがやってきた」。中学から高校時代はプレスリィ、ビートルズ、ローリングストーンズなど、ロックンロールが盛んでした。友だちがビートル



江藤秀一

一家の没落で、この会を通して、英語を読む楽しさを教わったように思います。この先生は英語を読むことを自ら楽しんでおられ、英語そのものに大変な興味を持っ

た。そんな頃、本学の前身である東京教育大を卒業した若い英語の先生が赴



教師の本音ちらり

吾輩は猫である

夏目漱石著



武井 隆道

「よい研究者仲間を持つことが大切」と答えた。

大田教授は「iitcafe」に参加した理由を身近な存在である学生に自分のやってきた事を伝えたいと話した。

「よい研究者仲間を持つことが大切」と答えた。

大田教授は「iitcafe」に参加した理由を身近な存在である学生に自分のやってきた事を伝えたいと話した。

「よい研究者仲間を持つことが大切」と答えた。

大田教授は「iitcafe」に参加した理由を身近な存在である学生に自分のやってきた事を伝えたいと話した。

第3回DC展

芸術の院生が展示

過去最多の来場者

本学の人間総合科学研究科芸術学専攻のうち、洋画・日本画・書の博士課程の学生ら12人による第3回DC展が12月26―28日と1月2―8日の10日間、茨城県立つくば美術館（つくば市吾妻）で開かれた。今回は43作品が展示され、期間中の来場者は過去最多の1231人だった。二紀展に毎年出展している加藤隆之さん（芸術3年）や、狩野宏明さん（芸術2年）ら

第2回 iitcafe

映像メディア技術を紹介

第一線で活躍する教員と最新技術の動向について語り合い、交流を深める機会である「第2回 iitcafe」が1月26日午後6時15分から、総合交流会館で開催された。第1回を上回る67人が参加した。

今回の講演者は、自由視点映像メディアやシースルービジョンなどの複合現実感システムの開発者として

知られる大田友一教授（知機）。シースルービジョンとは、複数のカメラを使用し、目の前の障害物をあたかも透けているように表示するシステムだ。大田教授は参加者に、シースルービジョンを用いたITS（高度道路交通システム）への応用の取り組みなどを、映像を交えながら分かりやすく紹介した。研究のモチ

「よい研究者仲間を持つことが大切」と答えた。

大田教授は「iitcafe」に参加した理由を身近な存在である学生に自分のやってきた事を伝えたいと話した。

「よい研究者仲間を持つことが大切」と答えた。

大田教授は「iitcafe」に参加した理由を身近な存在である学生に自分のやってきた事を伝えたいと話した。



# 苦難を乗り越え夢へ旅立つ

本学屈指のアスリートたちが、今年もつくばを湧かせた。そして今、新たな舞台へと旅立ちの時を迎えている。苦難を乗り越え成功を手にした6人に、4年間の思いと、新天地への決意を聞いた。



成迫健児 (陸上)

## 無冠に終わった高校時代 妥協許さず孤高の存在に

本学陸上競技部のエース・成迫健児(体専4年)。アジア大会で金メダルの活躍は記憶に新しい。大学では敵無しの成迫が、新たな舞台へと飛び立つ。

現在、日本を背負う存在になった成迫だが、入学当初は無名の選手だった。高校では無冠。大学1年の全日本インカレは、400メートルで出場できず、リレーもメンバーから外された。同年の全日本ジュニア選手権でも、高校生相手に4位。エリートではなく、苦しいを味わってきた。

4年間で、成迫が最も印象的だったのが、大学2年の夏。アテネ五輪出場をかけた最終選考会、静岡選手権だ。調整は順調で自信を握った。調整は順調で自信を握った。調整は順調で自信を握った。

残すところ2年。中学2年の時には全国中学校体育大会で準優勝。高校3年にインターハイ、国体、ウインターカップで3冠を達成。圧倒的な成績を引っ提げて本学に入学した。

本学では2年生の時からスタメン出場した。他大学と比べ高きで劣る本学は、ゴール下の勝負で不利だ。スピードとシュート力が重要となり、櫻田は外からゴールを攻める役割を担った。3ポイントシュートを多く打つようになり、シュート力に磨きがかかった。4年生になると、近藤啓子(同)と2人で後輩を引っ張るようになった。昨年11月のインカレでは、準決勝で伏兵・桜花学園に敗れ、悔いが残る結果に終わった。それでも櫻田は「チームメートにも指導者にも恵まれ、本当に充実した4年間だった」と振り返る。「指導者になりたい」と

## 悔しさ残る全日本インカレ 実業団トヨタで雪辱を誓う

「大学女子バスケのナンバースタイル」と内山トシユトだ。1試合に5治樹監督(体育・助教授)が評価する本学の名セクター3ポイントシュートを、学園に所属。厳しい練習に「ガード、櫻田佳恵(体専4年)が今年、卒業する。放った後、ボールが弧をもったが、試合で結果を」

残すところ2年。中学2年の時には全国中学校体育大会で準優勝。高校3年にインターハイ、国体、ウインターカップで3冠を達成。圧倒的な成績を引っ提げて本学に入学した。

本学では2年生の時からスタメン出場した。他大学と比べ高きで劣る本学は、ゴール下の勝負で不利だ。スピードとシュート力が重要となり、櫻田は外からゴールを攻める役割を担った。3ポイントシュートを多く打つようになり、シュート力に磨きがかかった。4年生になると、近藤啓子(同)と2人で後輩を引っ張るようになった。昨年11月のインカレでは、準決勝で伏兵・桜花学園に敗れ、悔いが残る結果に終わった。それでも櫻田は「チームメートにも指導者にも恵まれ、本当に充実した4年間だった」と振り返る。「指導者になりたい」と



櫻田佳恵 (バスケット)

## 戦う気持ちでチームに貢献 かつての仲間と同じ舞台に



岡田隆 (サッカー)

蹴球部の岡田隆(体専4年)が今年春、本学を卒業し、活躍の場をJリーグのジュビロ磐田に移す。

岡田は中学の時に、全国から参加者が集まるナショナルトレセンですでに有力選手として注目されていた。サッカーの名門校・藤枝東高校から、卒業後のフタコ入りを考え、本学に入学。その1カ月後のリーグ戦で1年生としては早いデビューを飾った。

スタミナや状況判断に優れる頭脳的なプレーが岡田の持ち味だ。体が大きくなると戦うための武器であり、本人も自信を持っている。

1年の秋からは守備的MFに転向し、その年のインカレで優勝。2年生の時には関東大学リーグ優勝に貢献した。リーグ戦は半年近く続く長期戦で、「チームの総合力が問われる。そこで優勝できたことが良かった」と岡田は振り返った。

その後2年間は、リーグ戦3位、インカレ出場を逃すなど成績が低迷した。チームの不調の時期には、練習中の士気を高めるために「4年生で話した。それでも練習の雰囲気を変えるのは難しく、それが成績を残せなかった原因の一つだった」と岡田は考える。

ジュビロは岡田が試合中



樋口真央 (ハンド)

「厳しさ」を追求した1年間  
文句一つ言わぬ仲間感謝

昨年、女子ハンドボールの時にインターハイで優勝した。より高いレベルを求めて本学へ入学し、1年の時から試合に出場した。

今年「後悔しないよう」と、優勝するためにできることは全てやった。3年の時、インカレ4連覇を逃し、無冠に終わった。その悔しさが樋口の闘志に火をつけた。

チームメイトには徹底的に「厳しさ」を求めた。練習中、気持ちが入っていない選手には「こんな練習では優勝できない」とその場で自分の気持ちを伝えた。最初はうまくいかず苦労したが、次第に樋口の気持ちに部員に伝わり、練習の雰囲気も変わってきた。

3年の12月には学生として一人、世界選手権に出場した。卒業後は実業団ソニーセミコンダクタ九州で日本一を目指す。「今は自分の実力を着実に伸ばすことが大事。何でも出来るマルチな選手になりたい」と

1年の秋からは守備的MFに転向し、その年のインカレで優勝。2年生の時には関東大学リーグ優勝に貢献した。リーグ戦は半年近く続く長期戦で、「チームの総合力が問われる。そこで優勝できたことが良かった」と岡田は振り返った。

その後2年間は、リーグ戦3位、インカレ出場を逃すなど成績が低迷した。チームの不調の時期には、練習中の士気を高めるために「4年生で話した。それでも練習の雰囲気を変えるのは難しく、それが成績を残せなかった原因の一つだった」と岡田は考える。

ジュビロは岡田が試合中



# 旅立つアスリート





## 茗溪山脈 体育・スポーツ列伝

ジョージ・アダムス・リーランド

明治初頭、文明開化が色濃く残る日本に、大きな変革をもたらした外国人がいた。ジョージ・アダムス・リーランドだ。リーランドは、明治政府のお雇い外国人として来日し、体操伝習所教師として、学校体育の基礎を築きあげた。



■体育のエリート

リーランドは、1850年(嘉永2年)、米国マサチューセッツ州ボストン市に生まれた。1870年に、米国で先進的に保健体育学科を創設したアムースト大学に入学。リーランドは身長188cm、77kgと、が

つりとした体格で、大学では体育運動に強い関心を持った。高い身体能力を生かし、終始体操クラスのキャプテンを務めた。

1878年(明治11年)、当時27歳だったリーランドは、明治政府からの要請を受け、約2カ月間の長旅の末、日本に上陸した。本学体育専門学群の前身で、日

## 体操教師は「お雇い外国人」

## 日本の学校体育の基礎築く

近代体育館・バレット体操伝習所の教師となったのが同年10月だった。

■西欧文化の導入

当時、日本は西欧文明を積極的に取り入れ、近代国家への成長を急いでいた。その中で、明治政府は学制や教育令、学校

## 成迫、歓喜の金メダル獲得 大舞台で有終の美飾る



陸上

男子400m障害は、12月9、10日に、ハリファ国際競技場で準決勝、決勝が行われ、成迫健児(体専4年)が、48秒78のタイムで優勝した。成迫は、大学生として出場する最後の大会を有終の美で飾った。

ゴールの瞬間、両腕を高く上げ、ガッツポーズを見せた。国内の学生の大会では、大学2年の関東インカシから負け知らず。ゴール後も普段はあまり感情を表現しないが、今回は違った。優勝できて嬉しかったと話した。

当日は、レース前に降った。夏休みに故郷の

合など、学校制度を確立しようとした。それは体育においても例外ではなかった。

当時の文部大輔(現在の文科省高級官僚)だった田中不二麿が1876年(明治9年)に渡米し

た際、アムースト大学の

進させる「少力運動」(普

通体操)の利用、体育館

の建設などを提唱した。アムースト大学やハーバード大学で学んだ人体測定法を導入し、東京師範

学校、女子師範学校の生徒に実施した。それにより体操の効果を研究したことは、リーランドが日

成迫は今大会を「7月に大阪で行われる世界陸上に向けたステップアップの場」と考えていた。「予定通り」の優勝で、大阪に向けて好スタートを切った。

大学女子の日本一を争う第4回全日本女子大学選抜駅伝が1月8日、本学キャンパスを主会場に開催された。つくば市での初開催となった同駅伝は、6区間30・67キロのコースで競われ、地区学連選抜8チームを含む20チームが参加した。優勝校は立命館大だった。

全日本女子大学選抜駅伝

## 品田、東大通りを力走

つくば市で初開催



スパートをかける品田(左、第2中継地点で)

テンだったリーランドだった。

■日本での多くの功績

リーランドが来日後、初代伝習所主幹の伊沢修二に提出した意見書の中で、体操を全校生徒の義務にすること、健康を増進させる「少力運動」(普

通体操)の利用、体育館

の建設などを提唱した。アムースト大学やハーバード大学で学んだ人体測定法を導入し、東京師範

学校、女子師範学校の生徒に実施した。それにより体操の効果を研究したことは、リーランドが日

成迫は今大会を「7月に大阪で行われる世界陸上に向けたステップアップの場」と考えていた。「予定通り」の優勝で、大阪に向けて好スタートを切った。

大学女子の日本一を争う第4回全日本女子大学選抜駅伝が1月8日、本学キャンパスを主会場に開催された。つくば市での初開催となった同駅伝は、6区間30・67キロのコースで競われ、地区学連選抜8チームを含む20チームが参加した。優勝校は立命館大だった。

全日本女子大学選抜駅伝

品田、東大通りを力走

つくば市で初開催

品田は、スタート地点や中継地点には多くの市民が詰めかけた。正午、晴天の下、中央公園で市原健一市長のピストルの合図によりスタートした。レース序盤から立命館大がリードした。

本に残した大きな功績の一つだ。また、リーランドが教授した初期の伝習所の卒業生は、各地の師範学校に赴任し、体育教師養成の開拓者として活躍した。体育史を研究する大熊廣明教授(体育)

が、「体育を、実践と理論の両面から伝えたことが大きな功績の一つ」と話すように、リーランドは

講義において体育論を説き、その後の体育研究に影響を与えた。

■医者としての人生

リーランドが自身の生涯の中で、体育関係の指導者として活躍したのは、在日していた3年間だけだ。アムースト大学

を須黒美沙子(日体大)から渡された。「東大通りに入ったあたりから向かい風が強く、思うようには走れなかった」と品田。しかし

筑波宙宙センター前の第2中継地点までに、順位を9位から7位にあげ、9分53秒のタイムで松井香織(白陽大)にたすきを渡した。レースはその後立命館大がリードし、1時間40分17秒でゴールの本学陸上競技場でテープを切り優勝した。関東学連選抜は1時間45分07秒で13位だった。

大学女子の日本一を争う第4回全日本女子大学選抜駅伝が1月8日、本学キャンパスを主会場に開催された。つくば市での初開催となった同駅伝は、6区間30・67キロのコースで競われ、地区学連選抜8チームを含む20チームが参加した。優勝校は立命館大だった。

成迫は今大会を「7月に大阪で行われる世界陸上に向けたステップアップの場」と考えていた。「予定通り」の優勝で、大阪に向けて好スタートを切った。

全日本女子大学選抜駅伝

品田、東大通りを力走

つくば市で初開催

品田は、スタート地点や中継地点には多くの市民が詰めかけた。正午、晴天の下、中央公園で市原健一市長のピストルの合図によりスタートした。レース序盤から立命館大がリードした。

を卒業した後、来日するまでの間、リーランドはハーバード大学医学部で医学を修め、ボストン市立病院でインターンや住み込み医を経験していた。日本を去った後も、医者としての生涯を送った。たまに行う釣りや狩猟以外、スポーツを愛しむことはほとんどなかったという。

現在では、世界各地からさまざまなスポーツが伝わり、学校体育の場でも実践されている。リーランドが伝えた普通体操は、大正初期に後発のウェーデン体操に取って代わられてしまった。しかし、日本近代学校体育の基盤づくりにリーランドが果たした役割は大きい。(本紙・関田航二体育専門学群)

## サッカーフェス開催

3月27大学が参加、本学で



サッカー

全国の大学の選手がサッカーを通して交流し、大学サッカー全体の成長に貢献することを目的とした第21回全国大学対抗サッカーフェスティバルが3月13

21日の9日間、本学サッカー会場に開催される。本大会では、毎年、本学蹴球部の学生が運営を担当している。

本大会は、雪でグラウンドが使えない地域の大学にサッカーの場を提供することを目的として8チームでスタートした。ここ数年

参加チームは徐々に増え、昨年の大会には36大学が出場した。今年は27の大学から54チームが参加する。参加した学生からは「さまざまなレベルのチームと試合することができ、新シーズンのよいスタートになった」「雪で4月下旬までグラウンドが使えないので、早い時期に課題を見つけることができてよかった」な

を決めた。

有田祐二監督(体育・講師)は「全日本で5位だった法政大との3回戦が山場だった。出ばなをくじいて二本勝ちし、勝利の流れを作った先鋒・美波の貢献が大きい」と満足げに語った。

昨年11月の全日本で、1年で選手に選ばれたのは多和田麻由(同1年)と鈴木美(同2年)が跳び込みメ

ンで一本勝ちし、決勝に進んだ。決勝の相手は日体大を信し自分の剣道を貫いただけであっても謙虚だ

## 体育会賞

【弓道部】田中美佐子 第37回全日本学生弓道遠征選手権大会 女子個人優勝【剣道部】佐久間陽子 第40回全日本女子学生剣道選手権大会 優勝【柔道部】秋本啓之 嘉納治五郎杯国際柔道大会 優勝 佐藤武尊 第18回全国体育系学生柔道体重別選手権大会 100kg超級 優勝 高田薫識・伊部尚子 全日本ジュニア選手権大会 優勝 福見友子 全日本学生柔道体重別選手権大会 48kg以下級 優勝【水泳部】岡崎晃一郎 第82回日本学生選手権水泳競技大会 1000m平泳ぎ 優勝 水落海海 第82回日本学生選手権水泳競技大会 50m自由形 優勝 宮下純一 第47回日本短水路選手権勝村幾之記念水泳競技大会 100m背泳ぎ 優勝【フットボール部】細川雄悟 06岩手高原全日本学生アルペンスキー大会 大回転 優勝【漕艇部】白井祐介 第6回アジアシニョーリング大会 軽量級男子個人 優勝 ペア 優勝 混合男女リレー 優勝【体操部】第5回全日本ちゃれんGボール大会 演技部門オープン演技 優勝 チームアタック(楡皮貴子・平朝朝映子・池田麻里・森口更紗・宮尾夏姫) 第2回全日本学生ラット競技選手権大会 規定演技演技部団体 優勝 筑波大学 A(田村憲一・吉田望・森口更紗・古屋欽司) 楡皮貴子 第5回全日本ちゃれんGボール大会 演技部門シニョーリングGボール 優勝 第5回全日本ちゃれんGボール大会 計測部門Sクラス 優勝 第12回全日本ラット競技選手権大会 女子直転・斜転・跳躍 優勝 第12回全日本ラット競技選手権大会 女子総合 優勝 吉田望 第2回全日本学生ラット競技選手権大会 自由演技部門種目別斜転 優勝 古屋欽司 第2回全日本学生ラット競技選手権大会 規定演技部門個人総合 優勝 自由演技部門種目別直転 優勝 諏訪部和也 ジャパンサーキットツアー札幌オリン(ヘアロビック)男シングルス部門 優勝【体操競技部】田窪啓太 全日本学生体操競技選手権大会 種目別鞍馬 優勝 山脇佳奈 全日本学生体操競技選手権大会 種目別ゆか 優勝【卓球部】伊藤のり 第16回世界大学卓球選手権大会 女子シングルス第3位【ダンス部】19th All Japan Dance Festival・Kobe 文部科学大臣賞 Artistic Movement in Toyama 06 松本千代栄チーム・ぐれいべッパ 篠原未起子・西山友貴【バドミントン部】秩父宮・秩父宮妃杯杯争奪 第57回全日本学生バドミントン選手権大会 女子団体 優勝 脇田侑・村松瑞穂 第9回世界学生バドミントン選手権大会 女子ダブルス 準優勝【ライフェービング部】塚本忠嗣 全日本ライフェービング選手権大会 レスキューチューブ レスキューレース 優勝 田山俊介 全日本ライフェービング選手権大会 レスキューチューブ レスキューレース 優勝【陸上競技部】成迫健児 第75回日本学生陸上競技対校選手権大会 400mH 1位 第90回日本陸上競技選手権大会 400mH 1位 第22回静岡国際陸上競技大会 400mH 1位 国際グランプリ陸上大阪大会 06 400mH 3位 土屋光第75回日本学生陸上競技対校選手権大会 走高跳 1位 Sakosui パー陸上06ヨコハマ 走高跳 3位 06テグ国際陸上競技大会 走高跳 3位 藤川健司 第90回日本陸上競技選手権大会 走高跳 1位 銭谷飛鳥 第75回日本学生陸上競技対校選手権大会 三段跳 1位 金子紗織 第75回日本学生陸上競技対校選手権大会 100mH 1位 美濃部貴衣 第75回日本学生陸上競技対校選手権大会 砲丸投 1位 石塚祐輔 第22回日本ジュニア陸上競技選手権大会 200mH 1位 宮原綾 第22回日本ジュニア陸上競技選手権大会 400mH 1位 清水悠 第22回日本ジュニア陸上競技選手権大会 三段跳 1位 吉田いずみ 第22回日本ジュニア陸上競技選手権大会 砲丸投 1位 第12回アジアジュニア陸上競技選手権大会 砲丸投 3位 品田貴恵子 第12回アジアジュニア陸上競技選手権大会 800m 2位 エリエンテリニック愛好会 川添智由 05年度日本学生オリエンテリニック選手権大会 ミドルディスタンス、リレー競技部門 一般の部 MUSクラス 優勝 千葉妙 06年度日本学生オリエンテリニック選手権大会(個人ロング・ディスタンス競技部門) 一般の部 WUレクラス 1位【トライアスロンクラブ】06日本学生トライアスロン選手権射水市大会 男子団体総合 優勝 河合彬正 第20回潮来トライアスロン全国大会兼第11回全日本大学選抜大会 優勝【団体奨励賞】合気道部

【弓道部】田中美佐子 第37回全日本学生弓道遠征選手権大会 女子個人優勝【剣道部】佐久間陽子 第40回全日本女子学生剣道選手権大会 優勝【柔道部】秋本啓之 嘉納治五郎杯国際柔道大会 優勝 佐藤武尊 第18回全国体育系学生柔道体重別選手権大会 100kg超級 優勝 高田薫識・伊部尚子 全日本ジュニア選手権大会 優勝 福見友子 全日本学生柔道体重別選手権大会 48kg以下級 優勝【水泳部】岡崎晃一郎 第82回日本学生選手権水泳競技大会 1000m平泳ぎ 優勝 水落海海 第82回日本学生選手権水泳競技大会 50m自由形 優勝 宮下純一 第47回日本短水路選手権勝村幾之記念水泳競技大会 100m背泳ぎ 優勝【フットボール部】細川雄悟 06岩手高原全日本学生アルペンスキー大会 大回転 優勝【漕艇部】白井祐介 第6回アジアシニョーリング大会 軽量級男子個人 優勝 ペア 優勝 混合男女リレー 優勝【体操部】第5回全日本ちゃれんGボール大会 演技部門オープン演技 優勝 チームアタック(楡皮貴子・平朝朝映子・池田麻里・森口更紗・宮尾夏姫) 第2回全日本学生ラット競技選手権大会 規定演技演技部団体 優勝 筑波大学 A(田村憲一・吉田望・森口更紗・古屋欽司) 楡皮貴子 第5回全日本ちゃれんGボール大会 演技部門シニョーリングGボール 優勝 第5回全日本ちゃれんGボール大会 計測部門Sクラス 優勝 第12回全日本ラット競技選手権大会 女子直転・斜転・跳躍 優勝 第12回全日本ラット競技選手権大会 女子総合 優勝 吉田望 第2回全日本学生ラット競技選手権大会 自由演技部門種目別斜転 優勝 古屋欽司 第2回全日本学生ラット競技選手権大会 規定演技部門個人総合 優勝 自由演技部門種目別直転 優勝 諏訪部和也 ジャパンサーキットツアー札幌オリン(ヘアロビック)男シングルス部門 優勝【体操競技部】田窪啓太 全日本学生体操競技選手権大会 種目別鞍馬 優勝 山脇佳奈 全日本学生体操競技選手権大会 種目別ゆか 優勝【卓球部】伊藤のり 第16回世界大学卓球選手権大会 女子シングルス第3位【ダンス部】19th All Japan Dance Festival・Kobe 文部科学大臣賞 Artistic Movement in Toyama 06 松本千代栄チーム・ぐれいべッパ 篠原未起子・西山友貴【バドミントン部】秩父宮・秩父宮妃杯杯争奪 第57回全日本学生バドミントン選手権大会 女子団体 優勝 脇田侑・村松瑞穂 第9回世界学生バドミントン選手権大会 女子ダブルス 準優勝【ライフェービング部】塚本忠嗣 全日本ライフェービング選手権大会 レスキューチューブ レスキューレース 優勝 田山俊介 全日本ライフェービング選手権大会 レスキューチューブ レスキューレース 優勝【陸上競技部】成迫健児 第75回日本学生陸上競技対校選手権大会 400mH 1位 第90回日本陸上競技選手権大会 400mH 1位 第22回静岡国際陸上競技大会 400mH 1位 国際グランプリ陸上大阪大会 06 400mH 3位 土屋光第75回日本学生陸上競技対校選手権大会 走高跳 1位 Sakosui パー陸上06ヨコハマ 走高跳 3位 06テグ国際陸上競技大会 走高跳 3位 藤川健司 第90回日本陸上競技選手権大会 走高跳 1位 銭谷飛鳥 第75回日本学生陸上競技対校選手権大会 三段跳 1位 金子紗織 第75回日本学生陸上競技対校選手権大会 100mH 1位 美濃部貴衣 第75回日本学生陸上競技対校選手権大会 砲丸投 1位 石塚祐輔 第22回日本ジュニア陸上競技選手権大会 200mH 1位 宮原綾 第22回日本ジュニア陸上競技選手権大会 400mH 1位 清水悠 第22回日本ジュニア陸上競技選手権大会 三段跳 1位 吉田いずみ 第22回日本ジュニア陸上競技選手権大会 砲丸投 1位 第12回アジアジュニア陸上競技選手権大会 砲丸投 3位 品田貴恵子 第12回アジアジュニア陸上競技選手権大会 800m 2位 エリエンテリニック愛好会 川添智由 05年度日本学生オリエンテリニック選手権大会 ミドルディスタンス、リレー競技部門 一般の部 MUSクラス 優勝 千葉妙 06年度日本学生オリエンテリニック選手権大会(個人ロング・ディスタンス競技部門) 一般の部 WUレクラス 1位【トライアスロンクラブ】06日本学生トライアスロン選手権射水市大会 男子団体総合 優勝 河合彬正 第20回潮来トライアスロン全国大会兼第11回全日本大学選抜大会 優勝【団体奨励賞】合気道部

にコーチがピッチでプレーを見せる場もある。また、日本サッカー協会の審判委員会が、本大会を研修の場として設定しており、審判を胸に、大会運営から試合、全てにおいて生き生きと活動する蹴球部の姿を見てほしい」と話している。

【弓道部】田中美佐子 第37回全日本学生弓道遠征選手権大会 女子個人優勝【剣道部】佐久間陽子 第40回全日本女子学生剣道選手権大会 優勝【柔道部】秋本啓之 嘉納治五郎杯国際柔道大会 優勝 佐藤武尊 第18回全国体育系学生柔道体重別選手権大会 100kg超級 優勝 高田薫識・伊部尚子 全日本ジュニア選手権大会 優勝 福見友子 全日本学生柔道体重別選手権大会 48kg以下級 優勝【水泳部】岡崎晃一郎 第82回日本学生選手権水泳競技大会 1000m平泳ぎ 優勝 水落海海 第82回日本学生選手権水泳競技大会 50m自由形 優勝 宮下純一 第47回日本短水路選手権勝村幾之記念水泳競技大会 100m背泳ぎ 優勝【フットボール部】細川雄悟 06岩手高原全日本学生アルペンスキー大会 大回転 優勝【漕艇部】白井祐介 第6回アジアシニョーリング大会 軽量級男子個人 優勝 ペア 優勝 混合男女リレー 優勝【体操部】第5回全日本ちゃれんGボール大会 演技部門オープン演技 優勝 チームアタック(楡皮貴子・平朝朝映子・池田麻里・森口更紗・宮尾夏姫) 第2回全日本学生ラット競技選手権大会 規定演技演技部団体 優勝 筑波大学 A(田村憲一・吉田望・森口更紗・古屋欽司) 楡皮貴子 第5回全日本ちゃれんGボール大会 演技部門シニョーリングGボール 優勝 第5回全日本ちゃれんGボール大会 計測部門Sクラス 優勝 第12回全日本ラット競技選手権大会 女子直転・斜転・跳躍 優勝 第12回全日本ラット競技選手権大会 女子総合 優勝 吉田望 第2回全日本学生ラット競技選手権大会 自由演技部門種目別斜転 優勝 古屋欽司 第2回全日本学生ラット競技選手権大会 規定演技部門個人総合 優勝 自由演技部門種目別直転 優勝 諏訪部和也 ジャパンサーキットツアー札幌オリン(ヘアロビック)男シングルス部門 優勝【体操競技部】田窪啓太 全日本学生体操競技選手権大会 種目別鞍馬 優勝 山脇佳奈 全日本学生体操競技選手権大会 種目別ゆか 優勝【卓球部】伊藤のり 第16回世界大学卓球選手権大会 女子シングルス第3位【ダンス部】19th All Japan Dance Festival・Kobe 文部科学大臣賞 Artistic Movement in Toyama 06 松本千代栄チーム・ぐれいべッパ 篠原未起子・西山友貴【バドミントン部】秩父宮・秩父宮妃杯杯争奪 第57回全日本学生バドミントン選手権大会 女子団体 優勝 脇田侑・村松瑞穂 第9回世界学生バドミントン選手権大会 女子ダブルス 準優勝【ライフェービング部】塚本忠嗣 全日本ライフェービング選手権大会 レスキューチューブ レスキューレース 優勝 田山俊介 全日本ライフェービング選手権大会 レスキューチューブ レスキューレース 優勝【陸上競技部】成迫健児 第75回日本学生陸上競技対校選手権大会 400mH 1位 第90回日本陸上競技選手権大会 400mH 1位 第22回静岡国際陸上競技大会 400mH 1位 国際グランプリ陸上大阪大会 06 400mH 3位 土屋光第75回日本学生陸上競技対校選手権大会 走高跳 1位 Sakosui パー陸上06ヨコハマ 走高跳 3位 06テグ国際陸上競技大会 走高跳 3位 藤川健司 第90回日本陸上競技選手権大会 走高跳 1位 銭谷飛鳥 第75回日本学生陸上競技対校選手権大会 三段跳 1位 金子紗織 第75回日本学生陸上競技対校選手権大会 100mH 1位 美濃部貴衣 第75回日本学生陸上競技対校選手権大会 砲丸投 1位 石塚祐輔 第22回日本ジュニア陸上競技選手権大会 200mH 1位 宮原綾 第22回日本ジュニア陸上競技選手権大会 400mH 1位 清水悠 第22回日本ジュニア陸上競技選手権大会 三段跳 1位 吉田いずみ 第22回日本ジュニア陸上競技選手権大会 砲丸投 1位 第12回アジアジュニア陸上競技選手権大会 砲丸投 3位 品田貴恵子 第12回アジアジュニア陸上競技選手権大会 800m 2位 エリエンテリニック愛好会 川添智由 05年度日本学生オリエンテリニック選手権大会 ミドルディスタンス、リレー競技部門 一般の部 MUSクラス 優勝 千葉妙 06年度日本学生オリエンテリニック選手権大会(個人ロング・ディスタンス競技部門) 一般の部 WUレクラス 1位【トライアスロンクラブ】06日本学生トライアスロン選手権射水市大会 男子団体総合 優勝 河合彬正 第20回潮来トライアスロン全国大会兼第11回全日本大学選抜大会 優勝【団体奨励賞】合気道部

を決めた。

有田祐二監督(体育・講師)は「全日本で5位だった法政大との3回戦が山場だった。出ばなをくじいて二本勝ちし、勝利の流れを作った先鋒・美波の貢献が大きい」と満足げに語った。

昨年11月の全日本で、1年で選手に選ばれたのは多和田麻由(同1年)と鈴木美(同2年)が跳び込みメ

ンで一本勝ちし、決勝に進んだ。決勝の相手は日体大を信し自分の剣道を貫いただけであっても謙虚だ

品田は、スタート地点や中継地点には多くの市民が詰めかけた。正午、晴天の下、中央公園で市原健一市長のピストルの合図によりスタートした。レース序盤から立命館大がリードした。

品田は、スタート地点や中継地点には多くの市民が詰めかけた。正午、晴天の下、中央公園で市原健一市長のピストルの合図によりスタートした。レース序盤から立命館大がリードした。



## 延長、ジョシユネを破る

### 「ポスト谷」へ再チャレンジ

柔道



世界20カ国から100人以上が参加する第24回福岡国際女子柔道選手権大会が12月16、17日にかけ、福岡国際センター(福岡市博多区)で開催された。今年が最後の開催となった同大会、本学からは2日目、48キロ級に福見友子(体育専

3年)が出場。アテネ五輪銀メダリストのジョシユネ(フランス)を破り、同大会で2年ぶり2度目の優勝を果たした。福見は準決勝までの3試合を全て一本勝ちで制して決勝へ進出。ジョシユネと対戦した。岡田弘隆監督(体育・助教授)が「動きのキレは、今年一番だった」と

いう福見。内股をかけたように、福見はジョシユネに対して袖つり込み腰をかけたように攻めるが、共に決め手を欠いたまま、5分。延長戦へとつれ込んだ。延長戦では、先にポイントを取った方が勝者となる。残り1分3秒、それまで常に前へと攻め続けてきたジョシユネが体勢を低く

して足を取ろうと飛び込んだところを、福見が切り返して倒し、押さえ込んだ。「ヤー」と声を上げた福見。「自然に体が動いた」という。

優勝を意味する「有効」が表示されたが、審判団が審議に入った。「取り消されたら次はどう攻めようかなどと、待っている間考えていた」と福見。審議が終わった。福見の優勢が決まった。

試合後、福見は「福岡国際は昨年優勝したことから、好きな大会。勝てた良かったが、納得はしていない。しかし一歩成長出来たと思う。冬季欧州大会や4月の全日本選抜では投げて勝ちたい」と語った。

福見にとって今大会は、負けられない大会だった。02年に全日本選抜で谷亮子(旧姓田村・トヨタ)を破って以来、「ポスト谷」候補の一角を占めていたが、最近近は山岸絵美(三井住友海上)や中村美里(渋谷教

育・助教授)が「動きのキレは、今年一番だった」という福見。内股をかけたように、福見はジョシユネに対して袖つり込み腰をかけたように攻めるが、共に決め手を欠いたまま、5分。延長戦へとつれ込んだ。延長戦では、先にポイントを取った方が勝者となる。残り1分3秒、それまで常に前へと攻め続けてきたジョシユネが体勢を低く

して足を取ろうと飛び込んだところを、福見が切り返して倒し、押さえ込んだ。「ヤー」と声を上げた福見。「自然に体が動いた」という。

優勝を意味する「有効」が表示されたが、審判団が審議に入った。「取り消されたら次はどう攻めようかなどと、待っている間考えていた」と福見。審議が終わった。福見の優勢が決まった。

試合後、福見は「福岡国際は昨年優勝したことから、好きな大会。勝てた良かったが、納得はしていない。しかし一歩成長出来たと思う。冬季欧州大会や4月の全日本選抜では投げて勝ちたい」と語った。

福見は語る。「大事なものは勝った後、冬春季大会でも勝って国内大会と国際大会の両方を制しておくことが重要」と、岡田監督は語る。4月

の全日本選抜には、谷も育児休暇から帰ってくる。谷は超えなければならぬ大きな壁。絶対勝ちたいと、福見は力強く語った。

張はしていなかっただけに、実力を出せなかったことが悔しい」と語った。秋本は9月に行われたワールドカップでも、外国人選手の、組ませまいとする変形柔道に悩まされた。欧州勢だけでなく、アジア勢も攻め方、パワーを上げてきている。日本柔道として負けていられない。冷静さ、闘争心の取り方をおさえて指導をとられ、無念の優勢負けを喫した。

結果について秋本は「緊回戦では、思うように体が動かなかった」という。双方決め手を欠いたまま延長戦へ。死闘でやれと齋藤仁日本代表監督が声をかけるが、ツァガンバートルは秋本に組まれまいと、袖を持たせない。結局秋本は、消極的であるとして指導をとられ、無念の優勢負けを喫した。

結果について秋本は「緊回戦では、思うように体が動かなかった」という。双方決め手を欠いたまま延長戦へ。死闘でやれと齋藤仁日本代表監督が声をかけるが、ツァガンバートルは秋本に組まれまいと、袖を持たせない。結局秋本は、消極的であるとして指導をとられ、無念の優勢負けを喫した。

## 福岡国際女子柔道選手権

# 福見、2年ぶり2度目



「負けられない大会」の、大きな一勝だった(提供=共同通信社、福岡国際センターで)

## インカレ

### 男子 東海大に敗れ、三連覇逃す

### 女子 無念ベスト16で敗退

バレー



学生日本一を決める全日本バレーボール大学選手権大会が昨年12月4-10日、東京体育館(東京・渋谷区)をメイン会場に行われた。三連覇が懸かった男子は1-3で宿敵東海大に敗れ、準優勝に終わった。昨年準優勝だった女子は福岡大に1-3で敗れ、ベスト16に終わった。

男子は昨年度キャプテンの石島雄介が抜けたあとの

チーム作りに苦戦し、今年度は東海大に勝ち星をあげていなかった。第1セット、本学ペースで試合が始まるが、競り合いを制した東海大に23-25でセットを先取される。第2セットでは、キャプテン三上圭治郎(体育専4年)が何度かスパイクを決めた。17-17になったところで、大野史成(同)の好サーブも決まり、本学は4連続得点。25-22でセットを奪った。

試合の分かれ目となった第3セット。三上や志賀崇(同)のスパイクが東海大のキャプテン・金子にプロ

不足の部分が出てしまった。ディフェンスからの切り返しを中心に攻撃力をより強化したい」と話した。女子は4回戦、福岡大の予想以上の好サーブに押され、1-3で敗退した。中西康己監督(体育・講師)は「決勝や準決勝に向けて準備をしていたが、足元をすくわれてしまった。新しいチームでは、どのようなゲーム展開になっても立て直しが出来るようにしたい」と語った。個人賞は次の通り。【男子】敢闘選手賞三上圭治郎(体育専4年)▽サーブ賞三上圭治郎▽リベロ賞永野健(同3年)

「めっちゃくちゃ疲れていた。でも自分が倒れたら

のポジションはファーストとピッチャーだった。本学に入学したのは、野球ができて将来指導者を目指すからだ。入学後ピッチャーに専念、1

て投げられるように体を作ってあげばもっと成長する」と断言する。大学に入ってからウェットトレーニングなどを精力的にこなし、下半身強化に励んでいた。入学当初に比べ体重が4、5キロ増えた。

川村監督は、春から秋にかけての坪井の精神的な充実を認める。「積極的な練習に取り組み、チームを背負うエースの自覚が出てきた」と振り返る。春には一点取られると失点を重ねていたが、秋にはランナーを出しても気持ち切り

替へ、自信を持ってしっかり抑えようと粘るようになった。坪井は秋季、最高殊勲選手、最優秀投手、ベストナインの三冠に輝いた。「フレッシュは当たり前に。プラスに考える」と前向きだ。強いピッチャーと張り合える、思うようなピッチングができるようになったことから「将来はプロか社会人で現役を続けたい」と目標を掲げる。

ライバルはチームのピッチャー全員だ。「野球とは真剣勝負ができる瞬間。ここでいうときの勝負強さでは誰にも負けない。体力作りを最優先に、一つひとつのボールの精度を高めれば、体力・技術ともまだまだ成長する可能性を秘めている。(本紙・藤井沙織II社会学類)



東海大戦でスパイクを打つ鈴木(東京体育館で)

男子は昨年度キャプテンの石島雄介が抜けたあとの

チーム作りに苦戦し、今年度は東海大に勝ち星をあげていなかった。第1セット、本学ペースで試合が始まるが、競り合いを制した東海大に23-25でセットを先取される。第2セットでは、キャプテン三上圭治郎(体育専4年)が何度かスパイクを決めた。17-17になったところで、大野史成(同)の好サーブも決まり、本学は4連続得点。25-22でセットを奪った。

試合の分かれ目となった第3セット。三上や志賀崇(同)のスパイクが東海大のキャプテン・金子にプロ

不足の部分が出てしまった。ディフェンスからの切り返しを中心に攻撃力をより強化したい」と話した。女子は4回戦、福岡大の予想以上の好サーブに押され、1-3で敗退した。中西康己監督(体育・講師)は「決勝や準決勝に向けて準備をしていたが、足元をすくわれてしまった。新しいチームでは、どのようなゲーム展開になっても立て直しが出来るようにしたい」と語った。個人賞は次の通り。【男子】敢闘選手賞三上圭治郎(体育専4年)▽サーブ賞三上圭治郎▽リベロ賞永野健(同3年)

「めっちゃくちゃ疲れていた。でも自分が倒れたら

のポジションはファーストとピッチャーだった。本学に入学したのは、野球ができて将来指導者を目指すからだ。入学後ピッチャーに専念、1

て投げられるように体を作ってあげばもっと成長する」と断言する。大学に入ってからウェットトレーニングなどを精力的にこなし、下半身強化に励んでいた。入学当初に比べ体重が4、5キロ増えた。

川村監督は、春から秋にかけての坪井の精神的な充実を認める。「積極的な練習に取り組み、チームを背負うエースの自覚が出てきた」と振り返る。春には一点取られると失点を重ねていたが、秋にはランナーを出しても気持ち切り

替へ、自信を持ってしっかり抑えようと粘るようになった。坪井は秋季、最高殊勲選手、最優秀投手、ベストナインの三冠に輝いた。「フレッシュは当たり前に。プラスに考える」と前向きだ。強いピッチャーと張り合える、思うようなピッチングができるようになったことから「将来はプロか社会人で現役を続けたい」と目標を掲げる。

ライバルはチームのピッチャー全員だ。「野球とは真剣勝負ができる瞬間。ここでいうときの勝負強さでは誰にも負けない。体力作りを最優先に、一つひとつのボールの精度を高めれば、体力・技術ともまだまだ成長する可能性を秘めている。(本紙・藤井沙織II社会学類)



昨秋、首都大学野球リーグで硬式野球部は10年ぶりの優勝に輝いた。その立役者が、2年生エース・坪井俊樹(体育専2年)だ。しなやかなフォームの本格派左腕で、身長184センチの長身から投げ込まれる速球は切れ味十分。リーグ戦終盤は疲れがたまり、決して本調子ではなかったが、それでも自慢のカーフ、ストリート、チェンジアップなどを組み合わせて三振の山を築いていった。東海大との優勝決定戦では11三振を奪った。中1日での先発では、「めっちゃくちゃ疲れていた。でも自分が倒れたら

の全日本選抜には、谷も育児休暇から帰ってくる。谷は超えなければならぬ大きな壁。絶対勝ちたいと、福見は力強く語った。

張はしていなかっただけに、実力を出せなかったことが悔しい」と語った。秋本は9月に行われたワールドカップでも、外国人選手の、組ませまいとする変形柔道に悩まされた。欧州勢だけでなく、アジア勢も攻め方、パワーを上げてきている。日本柔道として負けていられない。冷静さ、闘争心の取り方をおさえて指導をとられ、無念の優勢負けを喫した。

結果について秋本は「緊回戦では、思うように体が動かなかった」という。双方決め手を欠いたまま延長戦へ。死闘でやれと齋藤仁日本代表監督が声をかけるが、ツァガンバートルは秋本に組まれまいと、袖を持たせない。結局秋本は、消極的であるとして指導をとられ、無念の優勢負けを喫した。

結果について秋本は「緊回戦では、思うように体が動かなかった」という。双方決め手を欠いたまま延長戦へ。死闘でやれと齋藤仁日本代表監督が声をかけるが、ツァガンバートルは秋本に組まれまいと、袖を持たせない。結局秋本は、消極的であるとして指導をとられ、無念の優勢負けを喫した。

## 首都大学リーグ優勝の立役者 坪井俊樹(体育専2年)



坪井俊樹(体育専2年)は、春から秋にかけての坪井の精神的な充実を認める。「積極的な練習に取り組み、チームを背負うエースの自覚が出てきた」と振り返る。春には一点取られると失点を重ねていたが、秋にはランナーを出しても気持ち切り

替へ、自信を持ってしっかり抑えようと粘るようになった。坪井は秋季、最高殊勲選手、最優秀投手、ベストナインの三冠に輝いた。「フレッシュは当たり前に。プラスに考える」と前向きだ。強いピッチャーと張り合える、思うようなピッチングができるようになったことから「将来はプロか社会人で現役を続けたい」と目標を掲げる。

ライバルはチームのピッチャー全員だ。「野球とは真剣勝負ができる瞬間。ここでいうときの勝負強さでは誰にも負けない。体力作りを最優先に、一つひとつのボールの精度を高めれば、体力・技術ともまだまだ成長する可能性を秘めている。(本紙・藤井沙織II社会学類)

## キレの速球、粘りのピッチング

「めっちゃくちゃ疲れていた。でも自分が倒れたら

の全日本選抜には、谷も育児休暇から帰ってくる。谷は超えなければならぬ大きな壁。絶対勝ちたいと、福見は力強く語った。



# スポーツにおける地域貢献

毎週水曜日と土曜日、激しい乱取りの音に代わり、武道館に子どもたちの声が響く。周辺住民の子どもたち50人が通う、ユナイテッド柔道主催の少年柔道教室だ。2年前、公開講座を発展させる形で、岡田弘隆柔道部監督(体育・助教授)が地域貢献を目的に開講した。保護者は「武道に触れさせたい」「礼儀作法を



丁寧な指導が保護者に好評だ

「東西インカレ」をつくば市で開催、地域の注目を浴びた。

蹴球部では県内の少年サッカーラフに部員をコーチとして派遣している。剣道部でも少年剣道教室を開講している。

# ズームアップ

このような活動において大きな役割を果たしているのが、つくばユナイテッドだ。05年に「く

## スポーツによる相互理解

## 試合会場に地域住民の姿

ばスポーツから入へ、社会へ、そして次世代へ、普遍の魅力を「をキープ」に体育学系の教員53人が設立。運動部と地域社会の交流の場を創ることに努めてきた。現在ユナイテッドを結成している運動部は40に及ぶ。同様の取り組みは早稲田大でも行われているが、



「ブライインドサッカー」に蹴球部の学生が親しむ様子

## 「ブライインドサッカー」初体験

蹴球部アイマススクに四苦八苦

視覚障害者のサッカー「ブライインドサッカー」にする試みが12月20日、体育学系棟南側の広場で行われた。当日は蹴球部の他、女子サッカー部、障害者スポーツ支援団体(SAS)のメンバーも含め50人以上が参加。アイマスクをしての慣れないサッカーに歓声をあげながら取り組んだ。ブライインドサッカーとは、音が鳴るボールを使用したり、聴覚で周囲の状況が把握できるよう選手が大声を掛け合うなど、視覚障害者でも出来るように配慮されたサッカーのことだ。体育専門学群の授業科目「特殊体育」で取り上げ

本学は活動の規模と内容の広範さにおいて群を抜いている。

ユナイテッドに参加しているアニス部の山田幸雄監督(体育教授)は、地域と本学の間には距離がある」と語る。本学生の多くは茨城県外の出身。卒業後も地域に残る人は少ない。「学生が地域に

わけている男性は、柔道教室に参加して、筑波大生への印象が変わったという。「今どきの若者の一面しか見ていなかったが、優しく丁寧に指導する姿を見て感心した」と話す。

蹴球部普及局局長の伊藤慧さん(体育修士2年生)は、このような活動には「大学では得にくい実践力を得られる」というメリットがあるという。大学という特殊な空間に引きこもるのではなく、地域の子ともたちを教えることを通じて、地域の住民と接する。また、「学生コーチという立場で、厳しい視線にさらされるなどの経験を通して、学

生は成長してゆく。「学生コーチだからと侮られないよう、事故や怪我に注意して指導する」(蹴球部員)「子どもだからといって手は抜かない。礼儀やマナーをしっかり教える(柔道部員)など、学生の意識も高い。

これらの活動により、本学の運動部の活動は徐々に地域に根ざしてきている。蹴球部の応援バスツアーには、蹴球部員が指導している少年サッカーチームの子どもたちが親子で参加している。また、日本武道館で行われる柔道部の試合には柔道教室の子ともたちと保護者が駆けつけ、「先生がんばれ」と声援を送る。地域にとって「近くて遠い存在」だった本学は、スポーツを通じて少しずつ近い存在になってきているようだ。(本紙・齋藤竜太比較文化学類)

はともサッカーが上手だがブライインドサッカーを紹介したことをきっかけに、蹴球部員らが興味を持ち、体験してみようという今回の取り組みに至った。当日は、まずアイマスクをして周囲の人の声に反応する練習から始まった。声を出している人にタッチしたり、ボールでパスを出したりした。参加者は視覚の制限を受けた状態でのプレーに四苦八苦し、笑い声が響いた。また、チームメートの声を頼りにゴール枠の大きさを確かめ、シュートを打つ練習も行われた。参加した福地健太郎さん(人間3年の視覚障害者)は「とても盛り上がり、楽しかった。蹴球部の人たちが

## 「つくば観光大使」本学生 伊東さんが就任 筑波山梅まつりでPR活動

つくば市内外で開催されるキャンペーンでPRを行う「つくば観光大使」に本学生の伊東佑初子さん(自然4年)が選ばれた。つくば観光大使のメインの活動として、2月17日―3月21日にかけて開催される「第34回筑波山梅まつり」で、毎週末、着物を着て観光客

成17年度体育専卒)が紹介さされている。ナビの開設者の一人、武田理さん(体育研究科2年)は「地域住民の生活とスポーツをつなぐ架け橋となるべく、そんなコンテンツ作りを努めたい」と話す。

## スポーツの便利サイト

## つくばスポーツナビ開設

武田さんがナビの制作を思い立ったのは修士1年の冬、就職活動の時だ。スポーツメーカーや広告代理店などをまわったが、スポーツを生活の中で活かそうという空気が感じられなかった。「スポーツがとけ込んだライフスタイルを普及させられないか」と、スポーツと生活を密着させるためのツール作りを思い立った。現在このナビは4人の学生・院生が各方面から情報を集める形で運用している。しかし就職活動で忙しい学生も多く、人材の確保が課題だ。



つくば観光大使とツクツク。左端が伊東さん

筑波山中腹には約4.5ヘクタールの園内に、白梅や紅梅など約10種、1000本の梅が植えられている。2月中旬には紅梅、3月には白梅が見ごろになる。最大の売りは、梅林が山の斜面にあるため、梅林全体と関東平野を一望できることだ。伊東さんは「つくば観光大使として、首都圏に住む人たちにも筑波山に来てもらおうと、1月24日に横浜駅で梅の枝やポストカードを配るなどPR活動を行っている。

「筑波山の観光地としての魅力を一人でも多くの筑波大生に知ってもらいたい。梅の咲く季節に筑波山を訪れ、自分の生活している地域を眺めてみませんか」と伊東さん。初代つくば観光大使としての任期はい。梅の咲く季節に筑波山を訪れ、自分の生活している

## 2007年度宿舍倍率

### 男女とも大幅に低下

つくば地区の平砂、追越、一の矢の学群生・院生を対象にした一般単身用個室の入居抽選が、12月7、8の両日、平砂共用棟管理事務所で行われた。例年よりも入居希望者が少なく、男子は2.22倍、女子は1.31倍だった。昨年度はアスベスト除去改修に伴い、入居枠を大幅に減らした。その結果、男子が15.1倍、女子が

12.67倍と高倍率になった。アスベスト除去改修工事がなかった一昨年度は、男子が4.39倍、女子が3.31倍だったことから、今年度は低倍率だといえる。学生生活課では、工事の影響で現在の入居者が少ないため、例年よりも倍率が低くなったとみている。「3月には工事が終わる予定。新入生の受け入れには問題ないだろう」と話している。

## 椅子から菊地 堯

追られる事態に直面する遠い将来、ふと

原稿に取り掛かる数時間前、というのは1月23日の午後5時のことだ。卒業論文を提出してきた。1週間後が最終発表だから、大学新聞が発行される頃にはそれも終わっていることと思う。できれば笑顔で終わりたいものだが、果たしてうまくいくだろうか。

振り返って眺めれば、4年間の大学生活は長いようで短いものだった。期待と不安がないまぜになった中で臨んだ入学式も、軽い緊張を覚えながらはじめて編集室の扉をたたいたのも、ほんの数日前のことのように感じる。

しかし実際は、入学してから今日まで千数百日もの時間が過ぎていく。時の流れを感じずにこの4年間を過ごしてきたのは、日々を漫然と費やしたためなのか、それとも時間の感覚がねじ曲がるほどの速さで駆けた故なのか。

その答えがわかるのは大学院とか社会人といった、近い未来のことではない。人生の決断を迫られる事態に直面する遠い将来、ふと

## 駆けた時間 揺るがぬ自信

学生時代を振り返ったとき、胸に浮かぶのが後悔か自信か、それが答えになる。4年間、人生の中でほんの短い間でしかない時間が将来へ大きく影響する。なぜならば、大学には全てがあるからだ。

大学には社会へと一歩を踏み出すための原点が、生き方を運命づける一冊が、胸躍る先端科学が、山脈のように連なる歴史が、自分を表現するサークルが、ブー・アップせずにはいられない事件が、漫画のような日常が、ある。後輩を見守る卒業生が、異文化の視点を持つ留学生が、瞬間に全力を賭ける顔が、誰もがうらやまな能を持った同級生が、いる。車いすから眺めているだけでは手に入れない全きがある。

せっかくなんでもあるのだから、どれでも、好きなだけ楽しめばいい。時間どころか後悔すら置き去りにして、ひたすらに駆けつけいけばいい。そうすれば決断の時、手元に残るのはたなひとつ、揺るがせない。自信だけであろうから。

(文)

(図書館情報専門学群)



# 居室料金巡り意見百出

続けに4、5人被害に遭ったという。



彫塑展

「彫塑教育の今とこれから」

平成18年度彫塑展 3月2―7日(かけ、文化シャッターB Xビル(東京・文京区)2階B Xホールで開催される。開館時間は午前10時半から午後7時まで。

して、本学附属小・中・高校の児童・生徒の彫塑作品の展示や、彫塑教育に関するテーマでのギャラリートーク、視覚障害者のための鑑賞の手引きなども行う。ギャラリートーク 3月3日午前10時半から。テーマは「彫塑教育の今とこれから」。

春季図書館

土日・祝日は閉館

春休みに伴い、附属図書館の開館時間と貸し出し時間が変更される。土日・祝日は閉館する。

◆中央・体芸・図情図書館

3月8日から、開館時間

◆医学図書館

が午前9時―午後5時、貸出時間が午前9時―午後4時半に変更される。土日・祝日は閉館する。

芸術専門学群制作展

つくば美術館で開催

芸術専門学群制作展／芸術研究科修士制作展 茨城県つくば美術館で。学群の制作展は前期2月6―11日▽後期13―18日▽研究科修士制作展は20―26日の日程で開催される。開館時間は午前9時半から午後5時まで。(各展最終日の入館は午後3時まで)。前期は芸術学、洋画、日本画など6分野。後期は総合造形、クラフトなど8専攻。修了展は11分野。入場料は無料。また別会場として、芸術論文発表会が9日にアルスホールで開かれる。開場午前12時半、開演午後1時。また、芸術研究科世界遺産専攻論文発表会が東京文化財研究所セミナー室(東京・台東区)で開かれる。

……

うちわ話

★引退記者からひとこと★

初めての取材相手は、ゾウの足跡化石を発見したおじさん(院生)。研究室を訪ね、緊張しながら話した。化石探しの魅力、会社を辞めて大学に進んだ理由、将来の夢……。取材することの楽しさを知った。書いた原稿は真っ赤にされたけれど、これからの皆さんも、たくさん取材し、苦労しながら原稿を書いて下さい。(ニール)

7時間、大学野球の今後について語ったアキバの喫茶「ルノワール」。バレーにのびのびと、3日間通い続けたつくばカピオ。自己紹介をして」といわれる

後輩のみんなは、快適で効率の良い紙面作成のために室内外の抜本的な環境改善を……いやカオスこそが編集室の本質なのかな。どうかな。(赤ペン)

次号は

4月9日(月)

発行予定です

大学会館書籍部ベストセラー

1	華麗なる一族(上)	山崎豊子/新潮社
2	華麗なる一族(中)	山崎豊子/新潮社
3	ローマ人の物語 ローマ世界の終焉(15)	塩野七生/新潮社
4	ダメな議論	飯田泰之/筑摩書房
5	はじめての文学	村上春樹/文芸春秋
6	グレートギャツビー スコットフィッツジェラルド	村上春樹(訳)/中央公論社
7	アヒルと鴨のコインロッカー	伊坂幸太郎/東京創元社
8	グズの心理	斎藤勇/三笠書房
9	鏡の法則	野口嘉則/総合法令出版
10	千の風になって	新井満/講談社

1月の1位は、山崎豊子の「華麗なる一族」。4位は飯田泰之の「ダメな議論」。ニート問題から財政赤字まで、メディアの報道や常識の中には根拠のない「ダメ議論」が紛れ込んでいる。本書では実例を交えながら、ダメな議論の見抜き方を紹介。本当に有用な情報を手にするための方法を伝授する。

催事は、新星出版就職フェア(10%オフ、2月下旬まで)朝倉書店(理工書フェア(15%オフ))

催事

セミナー

◆自分らしさ発見セミナー 2月7日午後4時から、1H100教室で開催される。

講演会

◆エストニア国立タリン大学学長講演会 2月7日午後3時から、総合研究棟B1階A110講義室で行われる。

演奏会

◆ギター・マンドリン部第28回定期演奏会 2月17日、ノバホールで開催される。午前12時半開場、午後1時開演。入場無料。

劇団公演

公演「さくら＊へいめん」 2月17、18日2C107教室。17日は午後7時から。18日は午後1時と午後6時からの2部構成。入場無料。

体アイリスが主催するイベントの第3弾。今回は26歳で株式会社を設立した人気女性社長・経沢香保子さんが講演する。内容

原作は重松清の「日曜日の夕刊」(新潮社刊)より「チマ男とガサ子」。脚本・演出は北沢忠。出演は島村恒輝、粉川育子、平明之など。

筑波野生動物図鑑

◇シロハラ◇



筑波実験植物園にて。ツグミ科の鳥で体長25センチメートルほど。冬鳥としてこの時期全国に渡来する。主な繁殖地は中国北東部からロシア沿海地方だ。名前の通り、普通のツグミと比べ腹部が白っぽいのが特徴で、キヨロ、キヨロキヨロ……と鳴く。

撮影時は嘴で落葉を散らして餌を探すのに夢中だった様子。近づくと、鳴きながら飛び去っていた。(写真・文)山田啓介/生資2年 野生動物研究会